

②患者の原疾患も合わせて総合的に治療薬を選択しよう！

高尿酸血症の治療には尿酸生成阻害薬および尿酸排泄促進薬が用いられます。しかし、本症例のように「左腎結石を認める症例」では症状が悪化する恐れがあるため、尿酸排泄促進薬は使用できないところがPOINTです。

●高尿酸血症治療薬

治療薬	特徴
〈尿酸生成阻害薬〉 アロプリノール フェブキソスタット	・キサンチンオキシダーゼを阻害することにより、尿酸の生成を抑制する
〈尿酸排泄促進薬〉 プロベネド ベンズプロマロン	・尿酸の尿細管再吸収を抑制し、尿酸排泄を促進する ・尿酸排泄低下型に用いられる（ただし高度腎障害には禁忌） ・尿酸排泄促進薬を使用する場合、尿酸結石発生の防止に努める

※新青本⑦「高尿酸血症治療薬」より抜粋して引用

薬剤の知識を活用した臨床応用

本設問は、薬物の体内動態の変化を考え処方変更・提案をする内容です。国試では実践問題において**処方提案・変更に関する出題が増加**しています。各科目の知識を実務につなげましょう。

■第105回国試 問266～267

68歳男性。狭心症。かかりつけ医を受診し、定期的に処方1の薬剤を服用している。来局時の聞き取りにより、この患者は最近、他の医療機関で非小細胞肺癌と診断され、エルロチニブ塩酸塩錠による化学療法の実施が予定されているとのことであった。

(処方1)

アスピリン腸溶錠100 mg 1回1錠（1日1錠）
エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル20 mg
1回1カプセル（1日1カプセル）
ビソプロロールフマル酸塩錠5 mg 1回1錠（1日1錠）
1日1回 朝食後 28日分

問266（実務）

薬剤師は、かかりつけ医に化学療法に関する聞き取りの内容を伝え、処方変更について提案した。その内容として最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 アスピリン腸溶錠を中止する。
- 2 エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセルを中止する。
- 3 エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセルをラニチジン錠に変更する。
- 4 ビソプロロールフマル酸塩錠を中止する。
- 5 ビソプロロールフマル酸塩錠をベラパミル塩酸塩錠に変更する。

問267（薬剤）

処方変更をしない場合に問題となる、エルロチニブの体内動態の変化として適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 吸収の低下
- 2 肝代謝の阻害
- 3 肝代謝の亢進
- 4 尿中排泄の阻害
- 5 胆汁排泄の阻害

〈問266解答〉 2

〈問267解答〉 1

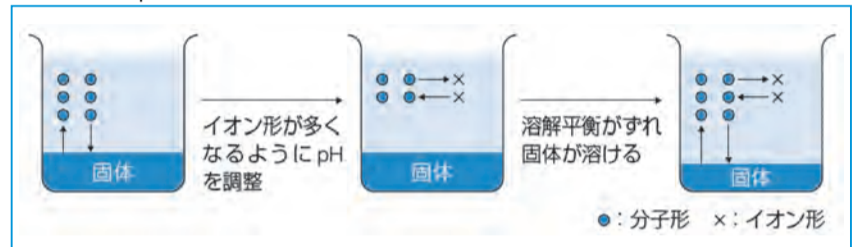
〈横断的なアプローチ（薬剤から実務へ）〉

薬剤の「物理薬理学」で学ぶ各医薬品の物質の物性や、体内動態の特徴を確認することで、**実践問題の薬物相互作用や医薬品の選択につなげる**ことができます。

〈具体的なアプローチ〉

本設問では**薬物の溶解性を考えてアプローチ**します。エルロチニブは、難溶性薬物でかつ弱塩基性薬物です。そのため、エソメプラゾールの併用などにより胃内pHが上昇すると、分子形分率が上昇し**溶解度が低下するため、消化管吸収が低下**してしまいます。したがって、エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセルの中止が望まれます。

●溶液のpH変化による溶解度変化



※新青本⑥「物質の溶解に酸・塩基反応が果たす役割」より引用

医療系科目の対策

具体例を提示したように、近年の国試では臨床現場を強く意識した問題が出題されています。特に医療系科目では、症例や処方箋を見て考える力が必要であり、薬理・薬剤・治療の知識を総合的に利用することが重要になっています。

以下に、医療系科目の勉強方法について紹介しますので、国試に向けての学修に役立ててください。

〈薬理と病態・薬物治療〉

薬理と病態・薬物治療は、臨床現場における**問題解決能力の有無を評価する問題**になっています。特に汎血球や電解質の血液検査結果が出題されやすく、基本的な**臨床検査値を早めに覚えておく方が良いでしょう**。

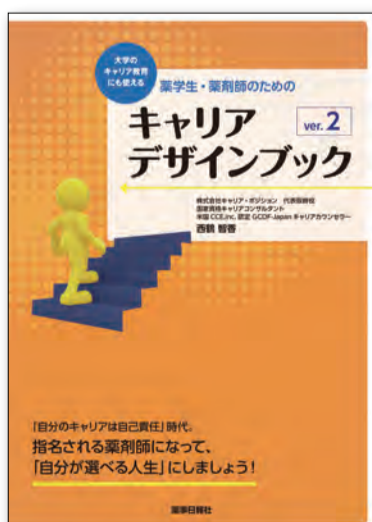
また、処方されている薬物の作用機序から病態の理解につなげることもできます。**薬理と病態を互いにリンク**させながら、国試に向けての学修を進めていきましょう。

〈薬剤〉

薬物動態学では、ADMEは生物の機能形態学とつなげて臓器ごとに特徴を考えることがおススメです。そして、**ADMEについて特徴ある具体的な薬剤を把握**し処方薬の選択につなげましょう。また、遺伝的多形や年齢的な体内動態変動など、**テーラーメイド医療に関連する内容についても実践問題で頻出**のため早めに手を付けましょう。

製剤学では、**各剤形の定義・特徴**を確認するとともに、実務の服薬指導や配合変化などにつなげると実践問題対策になります。物理薬理学では、物理で学んだ反応速度や酸と塩基などの基礎事項より、**医薬品の安定性や溶解性**につなげましょう。

『薬剤師としての将来を考えよう！』そのためのヒントが詰まっています！



B5判 122頁 定価 1,800円 + 税

大学のキャリア教育にも使える 薬学生・薬剤師のための キャリアデザインブック ver. 2

著 西鶴 智香 株式会社キャリア・ポジション 代表取締役
国家資格キャリアコンサルタント
米国 CCE, inc. 認定 GCDF-japan キャリアカウンセラー

POINT

- ◆キャリアデザインの必要性や考え方を基本から学べる
- ◆自分自身の考えを書き込みながら整理・分析することができるワークシートを多数掲載
- ◆薬剤師の具体的なキャリア事例を紹介

大学や企業で薬剤師のキャリアデザインについて講義してきた著者が、そのノウハウを活かし薬学生が自身の将来を描くためのキャリアデザインの方法やポイントを様々なデータや図表を交えてわかりやすく解説。

〈前版購入者の声〉

- ★自分の将来に関しての**考え方、価値観を変えるきっかけ**になりました。（18歳・女性）
- ★漠然としていた**自分のやりたいことを明確**にして就活に臨むことができました。（22歳・男性）

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (<http://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。